

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

岐阜県 七宗町

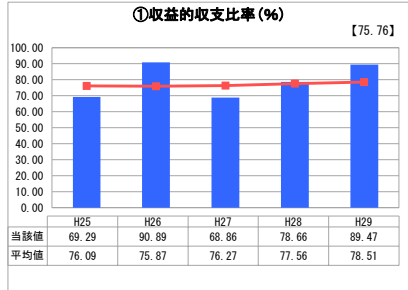
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.33	4,000	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,919	90.47	43.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,854	6.75	570.96

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



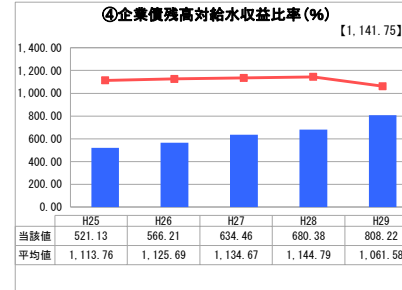
「単年度の収支」



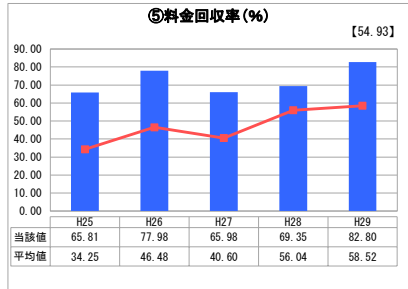
「累積欠損」



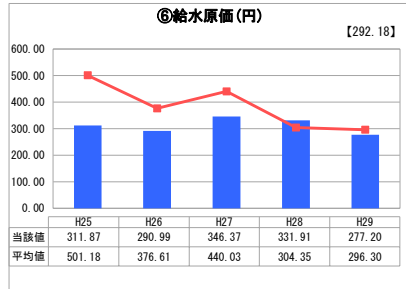
「支払能力」



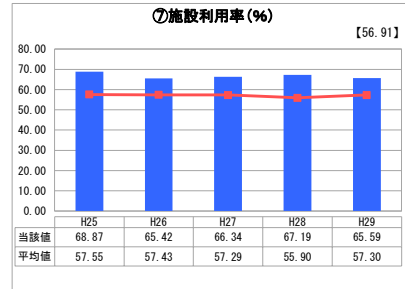
「債務残高」



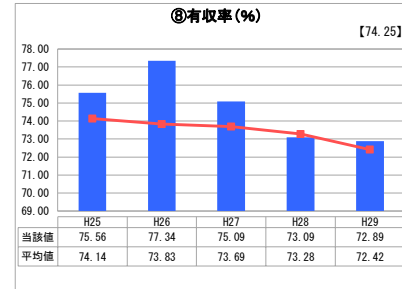
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

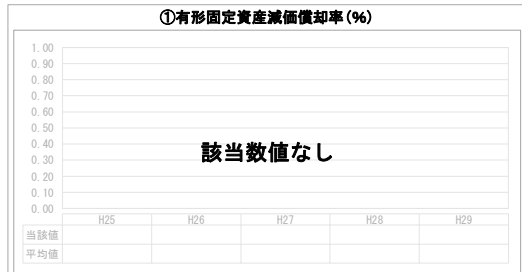


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

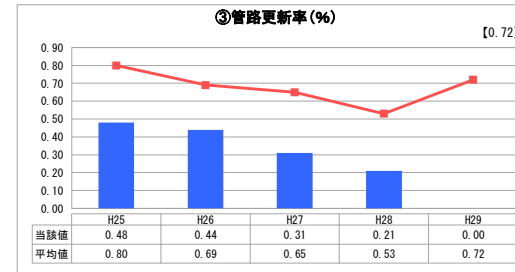
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

施設については、平成29年度に施設の改修を終える。管路については40年以上たっており、平成30年度より整備していく。収益的収支比率を見るように、ここ数年、年度により変動がある状況だが、平成26年度には料金見直し、費用の減少などにより比率は良くなっている。今後、収入の減少や維持管理費、起債額の増加により比率は徐々に低くなっていく事が想定され、一般会計からの繰入金が増える可能性がある。企業債残高対給水収益比率は、老朽化した施設の改修に伴い増加している。平成29年度に施設の改修を完了し、需要計画を試算し収支計画を見直している。今後は、老朽管の布設替えを計画している。現状として、漏水の早期発見・布設替えにより有収率を上げ、施設を効率よく稼働して行く。普及率も99%と高く一部給水区域外などを除き水道は町内全域に普及している。平成26年度に料金の改定を行い、一時的に料金は増えたが、人口減少・使用量減少により収入が減ってくる可能性が高いことから、水道料金の見直しを計画的に進めて行く必要がある。収入が減少する事が想定されることから、今まで以上にランニングコストの削減などにより支出を抑える経営改善をしていく必要がある。新たな資金確保も検討していく。

### 2. 老朽化の状況について

管路更新計画を策定し平成30年度より計画的に進めたい。平成29年度の管路更新については、計画策定に基づき更新はなかった。特に配水管の老朽による漏水が多く、重要拠点・基幹管路を中心に耐震管の布設替えを適切に実施していく。布設替えをすることにより、漏水箇所を減らし、有収率、施設利用率を上げていく。

## 全体総括

水道事業の経営については、収入の減少が見込まれるためランニングコストの削減を始め、効率の良い施設運転・有収率向上に努める必要がある。計画的な設備機器・管路の更新、更新時期の延長などを見極めつつ整備していく。また、平成28年度に経営戦略を策定。計画を基に健全な経営をしていく。料金収入だけでは、経営が厳しく、一般会計からの繰入金に頼っていると懸念がある。老朽化した施設・管路の更新に経費がかかっている。新たな資金の確保が必要であり、料金の見直しについては、経営状況を見ながら、5年から10年を目処に見直しを進めていきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。